

INAD Letter18



富山県美術館開館5周年記念

宮城県美術館所蔵 絵本原画の世界2022

2022年5月28日(土)-7月5日(火)



「絵本原画の世界2022」ポスター Design: 三木健

本展では、宮城県美術館が所蔵する初期の月刊「こどものとも」絵本原画コレクションから選りすぐって34作家、約350点の貴重な絵本原画を紹介する展覧会です。

「こどものとも」は、終戦後間もない時期に、幼少期に上質な美術体験を与える絵本づくりを目指し、美術界で活躍する作家を始め、商業美術、漫画など幅広い美術・芸術分野から絵本にふさわしい作家を発掘しました。そしてその中からは、絵本を主な舞台として制作する絵本作家も育っていました。

「こどものとも」は作家たちにとって、思い思いの手法や可能性を試すもう一つの表現の場となりました。これらの原画は、各作家の絵画作品としての美術的価値が高いだけでなく、創刊から60年以上経つ今、絵本という文化が、子どもから広く大人まで親しまれるものに成長する歴史を語ってくれるものであります。

本展には、富山県美術館にも作品が所蔵されている、秋野不矩や池田龍雄、佐藤忠良といった画家や彫刻家らも名を連ねます。絵画や彫刻にとどまらない彼らの創作活動から、これまで目にしてきた作品とは異なる作家的一面と出会うことができるでしょう。

今では、子どもから大人まで広く親しまれる、日本の絵本原画の原点と歩みを、作家の制作過程や魅力あふれる原画の数々でお楽しみください。

開催概要

開館時間 9:30-18:00(入館は17:30まで)

休館日 毎週水曜日

会場 富山県美術館2階 展示室2、3、4

主催 富山県美術館、富山新聞社、北國新聞社、チューリップテレビ

特別協力 福音館書店

企画協力 キュレイターズ

観覧料 一般900(700)円、大学生450(350)円、

高校生以下無料

※()内は20名以上の団体料金

関連イベント

オープニング「絵本原画の世界2022」関連ワークショップ

【合わせ切りでつくろう! ヘンテコいきものえほん】

日程 2022年5月28日(土)-7月15日(金)

時間 10:00-12:00/14:00-16:00 ※入場は各回終了30分前まで

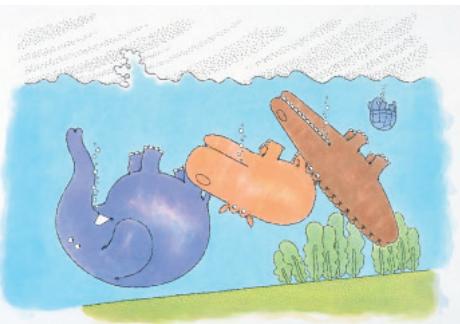
場所 3階ラボ(アトリエ内)

定員 24名(1机に1団体、4名まで。感染症の状況によって変動します。)

内容 合わせ切りの技法を使い、色紙でへんてこな生きものの絵本(6ページ)をつくります。

※都合により、急きょお休みとなる場合があります。あらかじめご了承ください。

(見どころと出品作品)



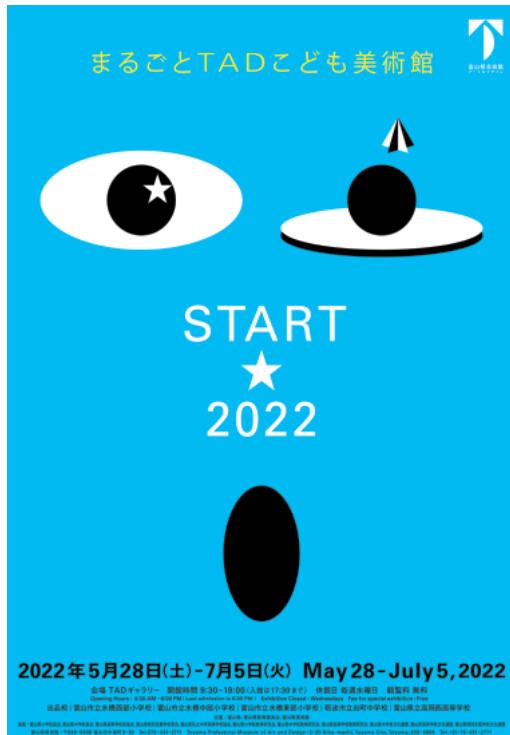
左上: 太田大八《がらんぼーごろんばーげろんば》表紙・裏表紙原画 右上: なかひのひろたか《ぞうくんのおおかせさんぽ》28-29頁原画
左下: 池田龍雄《ろくとはちのぼうけん》18-19頁原画 右下: 佐藤忠良《ハバヤガーのしろいとり》16-17頁原画 ※作品はすべて宮城県美術館所蔵

POINT

- ▶ 『ぐりとぐら』や『はじめてのおつかい』など「こどものとも」の絵本原画約350点を紹介!
月刊「こどものとも」は、終戦後間もない時期に、幼少期に上質な美術体験を与える絵本づくりを目指し、美術界で活躍する作家を始め、商業美術、漫画など幅広い美術・芸術分野から絵本にふさわしい作家を発掘しました。様々な作家が携わった日本の絵本の歴史の一端をご覧いただけます。
- ▶ 絵本のできるまでが見えてくる!
絵本原画からは、印刷物としての絵本とは異なり、原画ならではの鮮やかな色彩や質感、技法や画材の組み合わせが見て取れます。作家がどのようにその場面を描いていたのか、印刷工程上の色の指示、文字を載せるために省かれた背景の部分などから、絵本が出来上がるまでの過程をうかがい知ることができます。
- ▶ 富山県美術館所蔵の作家による絵本原画も展示!
本展には富山県美術館にも作品が所蔵されている、秋野不矩や池田龍雄、佐藤忠良といった画家、彫刻家も名を連ね、絵画や彫刻にとどまらない彼らの創作活動の一端に触れるごとのできる機会となります。これまで目にしてきた作品とは異なる作家的一面と出会うことができるでしょう。

START☆2022

2022年5月28日(土)-7月5日(火)



「START☆2022」ポスター Design: 三木健

開催概要

開館時間 9:30-18:00(入館は17:30まで)

休館日 每週水曜日

会場 富山県美術館1階 TADギャラリー

主催 富山県、富山県教育委員会、富山県美術館

後援 富山県小学校長会、富山県中学校長会、富山県高等学校長協会、富山県特別支援学校長会、富山県私立中学高等学校協会、富山県小学校教育研究会、富山県中学校教育研究会、富山県高等学校教育研究会、富山県中学校文化連盟、富山県高等学校文化連盟、富山県特別支援学校文化連盟会、富山県中学校文化連盟、富山県高等学校文化連盟、富山県特別支援学校文化連盟

観覧料 無料

出品校

富山市立水橋西部小学校、富山市立水橋中部小学校、富山市立水橋東部小学校 ※3校合同

砺波市立出町中学校

富山県立高岡西高等学校

イベント

【TADおさんぽbingo】

富山県美術館を歩き回って絵に描いてあるものを見つけながら探検してみよう!

たて、よこ、ななめいすれかの列がそろったら、さいさいカードに1ポイントをプレゼント!

配布・ポイント交換受付場所 3階ラボ(アトリエ内) 配布・ポイント交換受付時間 10:00~12:00/14:00~15:00

※都合により、急きょお休みとなる場合があります。あらかじめご了承ください。

教育企画展「START☆2022」は、今年度から開催場所を変え、TADギャラリーや、館内のフリースペースを交えて2年ぶりに開催します。観覧無料のスペースに移行することにより、これまでより気軽に、ご来館の方々の目に触れる機会となります。

出品校は、小・中・高等学校から計5校。小学校3校は、同じ中学に進学する校区の5、6年生が参加しています。各校の国工美術の時間を使って、オンラインで合同授業を行いながら、各自が木枠を支持体にして自分の世界を繰り広げ、明日に向けての未来を作り上げることを目標に制作しています。中学校は、美術部単位での出品となり、部員の作品を、絵画、立体、ポスター・デザインなど、多彩な活動の集大成として展示します。高等学校は、学校の再編に伴い、高岡西高等学校最後の在校生となる生徒全員で共同制作した作品を展示します。大型の平面作品2点を展示し、スペシャルゲストとして同校卒業生である人気YouTuber「はじめしゃちょー」を迎えたメモリアルな内容となっています。

長年続いている教育企画展も、時代に応じたかたちに変化しながら、子どもたちや先生方による教育現場のよりよき成果発表の場となることを期待しています。

富山県美術館開館5周年記念

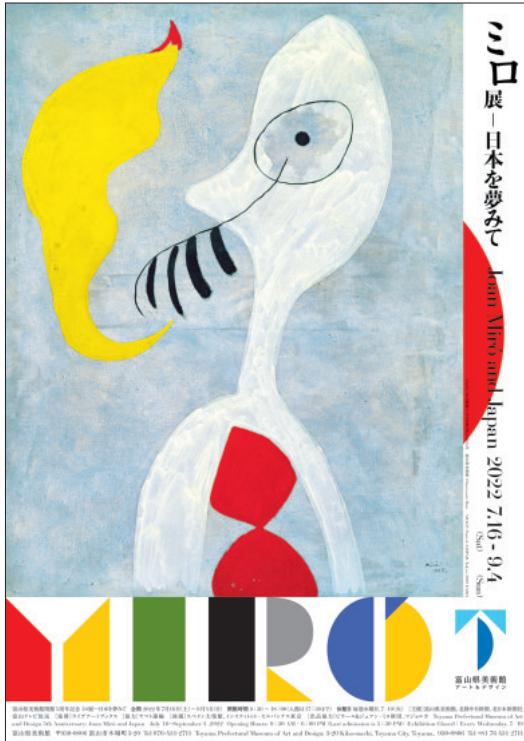
ミロ展 一日本を夢みて

2022年7月16日(土) - 9月4日(日)

20世紀を代表するスペインの画家ジュアン・ミロ(1893-1983)。1888年に万国博覧会が開催されジャボニスムが流行していたバルセロナで生まれた彼は、若い頃から浮世絵や俳句に関心を寄せ、日本文化に造詣の深い芸術家でした。一方、1940年、ミロのモノグラフ(単行書)が世界で初めて出版されたのは、実は、ここ日本でした。著者は、戦前から日本にミロ作品を紹介していた、富山県出身で詩人・美術評論家の瀧口修造(1903-1979)です。1966年のミロの初訪日以来二人は親交を深め、2点の詩画集を共作しており、瀧口はミロにとって最も関係の深い日本人といえるかもしれません。

本展は、ミロと日本の関係に注目した初の展覧会です。スペイン、ニューヨーク、日本の各地からミロ作品が集結し、また、画家のアトリエに残された日本の民芸品や多彩な関連資料等も紹介します。

当館からは、前身である富山県立近代美術館の設立に瀧口が関わっていた縁もあり、西洋美術コレクションの第1号となった《絵画(パイプを吸う男)》をはじめ、ミロから瀧口に贈られた二人の友情を伝えるカラバサ(ひょうたん)《ジュアン・ミロからの贈り物(ミロのカラバサ)》などが出展されます。ミロと日本文化の意外なほどに深いつながりに思いを馳せつつ、ミロの芸術世界をお楽しみください。



「ミロ展 一日本を夢みて」ポスター Design: 永井裕明

開催概要

開館時間 9:30-18:00(入館は17:30まで)

休館日 毎週水曜日、7/19(火)

会場 富山県美術館2階 展示室2、3、4

主催 富山県美術館、北陸中日新聞、北日本新聞社、富山テレビ放送

観覧料 一般1,100(850)円、大学生550(420)円、高校生以下無料、一般前売り850円

※()内は20名以上の団体料金

関連イベント

会期中のイベントの詳細は、当館ホームページやSNS等でお知らせします。

イベント開催報告 1

富山県美術館開館5周年記念

蜷川実花展 スペシャル・トークイベント



2022年3月19日(土)に、蜷川実花氏と光田由里氏(美術評論家・多摩美術大学教授)によるトークイベントを実施しました。写真を専門的に論じられる光田氏が聞き手となって進められ、ホワイトキューブの壁で見せるプリント写真の透明感や美しさ、「フォトアクリル」技法の特徴や色へのこだわりなど、蜷川氏の写真の見どころを語っていただきました。

蜷川氏は、自作の特徴である虚実が入り混じったような「胡蝶の夢」のような世界について、あくまで現実の日常にあるものしか写しておらず、誰もが過ごしている日常を自分の視点で見ることが表現の原点となる、と話されました。今回、蜷川氏の新たな試みとなった映像インсталレーションの作品では、写真や映画とも異なる、映像での手ごたえを感じられたとのこと。「軽やかに、傷だらけ」な経験をしつつ、表現していることも回顧されました。

開館5周年記念の第1弾として、同時代を生きるアーティスト・蜷川実花氏に当館限定の個展を依頼した意義、混沌とした時代に希望や勇気を感じ取れる展覧会を開催できたことを再確認できる対談でした。

※本イベントの動画は、富山県美術館公式YouTubeで2022年4月18日～5月15日まで、期間限定で無料配信しました。

写真右: 蜷川実花氏、写真左: 光田由里氏

イベント開催報告 2

アーティスト@TAD

BE WATER



展示会場の様子 Photo: 柳原良平

2020年頃から始動し、長きにわたる取材・制作期間を経て2022年3月27日(日)から開催した「BE WATER」展が、5月8日(日)にその会期を終えました。インсталレーション形式の展示会場では、重い作品を持ち上げて電気仕掛けの機械を起動させたり、ブラウン管テレビのチャンネルを操作して作品内部に設置してある隠しカメラを切り替えたり、作品同士のつながりを鑑賞者が動力となって体感できる内容となりました。現代では見慣れなくなった古めかしいブラウン管テレビの画面を、興味津々でのぞき込む子どもたちの姿が印象的でした。大型除雪機内部に組み込まれている部品の「シャーター」「オーガ」、東山円筒分水槽などを具体的なモチーフとし、「富山の水循環」をテーマに繰り広げられた本展は、作家たちの目線で切り取られた新たな富山の景色を見せるものとなりました。

2022年度展覧会スケジュール 富山県美術館開館5周年記念

- ▼ 宮城県美術館所蔵 絵本原画の世界2022 2022年5月28日～7月5日
- ▼ ミロ展 一日本を夢みて 2022年7月16日～9月4日
- ▼ 西洋絵画400年の旅 一珠玉の東京富士美術館コレクション展一 2022年9月17日～11月20日
- ▼ 「デザインスコープ」展 2022年12月10日～2023年3月5日
- ▼ 生誕120年 棟方志功展 2023年3月18日～5月21日

「はじめしゃちょーの富山県美術館デビュー!」動画配信中!



動画クリエイター・はじめしゃちょーがアートテラーと共に、氏の案内で富山県美術館を巡ります!

配信場所:富山県美術館公式YouTubeチャンネル



▼トピックス

新館長 布野浩久よりご挨拶

このたび、雪山行二前館長の後を受け、富山県美術館館長に就任いたしました。当館は、今年、開館5周年の節目の年を迎えました。所蔵する世界的なコレクションや、開放的な空間、オノマトペの屋上など、幅広い世代が楽しめる多様な特長を生かし、魅力ある展覧会の開催や、子どもたちをはじめ、様々な方に楽しんでいただけるイベント等の企画、DXの推進等に一層取り組

みたいと考えております。今後も、子どもから大人まで幅広い県民のみなさまや美術愛好家の方など多くの方々に親しまれ、ワークショップなどを楽しむ子どもたちの声が聞こえ、そして訪れた方々が幸せな時間を感じていただけるような美術館であることを願っています。みなさまのご来館を心からお待ちしております。



TADのポスターを、永井裕明氏が担当します!

企画展「ミロ展 一日本を夢みて」より、企画展ポスターのデザインを、東京を拠点に国内外で活躍するグラフィック・デザイナー、アートディレクター、永井裕明氏が担当することとなりました。永井氏は、当館が1985年より開催している「世界ポスタートリエンナーレトヤマ（IPT）」での銀賞（2009）、銅賞（2012）受賞とともに継続的な入選

を果たしています。

その永井氏が手掛ける1回目の「ミロ展」ポスターでは、リズミカルな「MIRO」の文字が、当館のコレクションからの本展出品作《パイプを吸う男》と色彩で響きあい、夏から始まる本展への期待を高めます。また、「TAD Letter」のデザインも今号から永井氏が担当します。



《AIR OF NEW YORK》 ジャスパー・ジョーンズ&東野芳明

1966年 ポール紙の筒、薬の空き瓶、航空便の荷札



薬の空きボトル、荷札、紙筒からなるこの作品は、瀧口修造の旧蔵品である。アメリカの芸術家ジャスパー・ジョーンズ(1930-)と、美術批評家・東野芳明(1930-2005)の共作という特異な履歴を持つこの作品は、何を表し、どのような経緯で瀧口の書斎に“漂着”したのだろうか。

手がかりとなるのは、荷札に記されたメモ「objet consumed by Tono sealed by J.J.」である。ここには、この薬(レダリー社製の抗菌薬アクロマイシン)が東野により消費され、ジャスパーによって封印されたことが記されている。薬のボトルが、なぜ「ニューヨークの空気」なのか。瀧口の関心事に通じていれば自明だが、これは20世紀を代表する芸術家マルセル・デュシャン(1887-1968)が自らのバトロン、ウォルター・アレンズバーグへのお土産として制作した《パリの空気》(1919年、フィラデルフィア美術館蔵)のパロディであり、本家デュシャンがパリの空気を詰めた(というか、空の)ガラス容器を《パリの空気》と命名してお土産にしたのに対し、東野とジャスパーは同じく空の薬品容器を《ニューヨークの空気》と称して、瀧口

へのお土産としたのであった。本作が制作された頃、瀧口はデュシャンの偽名である「ローズ・セラヴィ」を冠した「オブジェの店」を開くことを夢想し、さらにはデュシャンの言葉をまとめた『マルセル・デュシャン語録』の製作を進めていた。

東野は1965年9月から欧州・アメリカを周遊したのち、1966年の4月末から5月上旬の間に帰国したと考えられる。荷札に記された日付(1966-5-5)が制作日なのだとすれば、帰国直前に郵送したとは考えにくいため、欧州・アメリカ周遊から帰国した東野が、たくさんの土産と共に本作を瀧口にプレゼントしたに違いない。《パリの空気》ならぬ、《ニューヨークの空気》を受け取った瀧口のほくそ笑む顔が思い浮かぶ。瀧口はジャスパーのことを「あなたはマルセル・デュシャンの唯一の息子だ。なぜならデュシャンには息子がないから」と述べたと伝わるが、東野もまた瀧口の“精神的”な息子であったとすれば、本作の制作日が5月5日、「子どもの日」であるのはただの偶然なのだろうか。

(普及課主任 遠藤 亮平)

*1958年にダリに会った東野は、瀧口が自分の父親なのかと聞かれた際、「精神的には…」と答えたと記されている。

富山県美術館(TAD)

〒930-0806 富山県富山市木場町3-20(富岩運河環水公園内) tel.076-431-2711 fax.076-431-2712 <https://tad-toyama.jp/>